

【抄 録】

## 『歯科技工士の視点から考える 新たな震災への対策と役割』

有限会社コスモテックス **安井 一仁**

(宮城県歯科技工士会 常務理事)

2011年3月11日の東日本大震災から10年が経過し、東北地方太平洋沿岸の津波被災地域の復興は進んでいる。しかし、ふとしたところに震災の爪痕や、後世のために意図して刻んだ記憶が残る。道路を走ると散見される「津波到達地点」の看板や石碑は、平野だけではなく山間部にまであり、今走る道が被災時には水没していたことに毎回驚きと不安を感じる。

この震災を教訓とした社会への取り組みは、防災や減災のみならず、様々な分野において発展的に取り組まれている。歯科医療の分野においても、浮き彫りとなった課題を原点として、新たな形で役立てることを目指している。

本講演では、東日本大震災の被災経験の記憶を今一度呼び起こし、被災した歯科技工士、歯科技工所の当時の状況をお伝えするとともに、当時の宮城県歯科技工士会の活動を振り返る。そして、震災後に私どもが開発に着手した身元不明者・徘徊者の搜索照会用「ICタグ内蔵義歯」の開発の経緯と、その後の展開を示したいと思う。

さらに、本年より弊社が検討している、歯科技工を目的とする3Dプリンター搭載車両の可能性についてお伝えし、これからの社会において、歯科技工士の我々に何ができるかを皆様と共に考える機会としたい。